

ポポコ 新聞

[Ponpoko News]

第 60 号



=発行=

2015年8月2日

喜多見ポポコ会議

www.ab.auone-net.jp/~ponpoko

— 働くお母さん・お父さん、子どもたち、保育園を応援します —



多摩川の散歩で土手すべり

がんばれ！喜多見の保育園

喜多見地域には現在6つの保育園があります。お話を伺うと、どの保育園の方も喜多見は都会にありながら自然豊かで、子ども達は虫取りや木の実で遊ぶのが好きだとおっしゃいます。取材を通して改めて喜多見を見直しました。



1 世田谷喜多見雲母保育園

喜多見駅から徒歩1分、園児35人のアットホームな保育園です。午前中は主にふれあい広場や野川沿いへ散歩に出かけ、室内では裸足保育を取り入れています。朝夕など時間帯によってはクラスの垣根を越えて一緒に活動し、上の子が下の子の世話をよくしてくれます。また、食育に力を入れていて、年に2回給食フェアを行っています。テーマは毎回異なり、この7月は「偉人が愛した料理フェア」。保護者の皆さんが描いてくれた古今東西の偉人達の肖像画がたくさん掲示され、どれも素晴らしいです。



2 喜多見保育園（区立）

昭和42年開設、世田谷通り沿いにあり成城さくら児童館・成城さくら公園に隣接しています。桜の木や実のなる木、昆虫のいる木が身近にあります。次大夫堀公園での田植え体験や野川沿いの散歩も貴重です。異年齢で構成する縦割り保育も行い、老人施設を定期的に訪ねて交流もしています。これらの活動を通して、核家族で子どもの数も少ない現代において少しでも子ども同士や年長者とふれあう機会ができればと考えています。また地域に向けて体験保育や妊婦さんの学びの場も提供しています。



3 喜多見野の花保育園

昨年7月、喜多見まちづくりセンター跡地に開設した新しい保育園です。子どもがやりたいことを出来るだけ聞き取って子ども主体に考えています。開設時から積極的に取り組んでいる「荒馬踊り」は、みんな大好き。年長さんになったら自分の馬をつくって跳びはねるのを心待ちにしています。次大夫堀公園やトラストの行事、ポポコの野川ガサガサなど地域の自然を活かした活動にも積極的に参加しています。園の行事をできるだけ開放し、地域の皆さんが気軽に立ち寄れる身近な保育園にしたいと考えています。



4 小梅保育園（区立）

都営団地の1階にあります。すべての部屋が1階なのですぐに園庭へ出られ、年少の子が外へ出ようとしていると年上の子が来て靴を履かせてくれたり、自然に世話を焼いています。数年前に調理室をガラス張りにして食育にも力を入れています。給食のトウモロコシやソラマメの皮むきを子ども達が経験したり、園庭の梅の実でジャムも作ります。新しく設けた絵本コーナーは保護者が絵本や育児書を気軽に借りられると好評です。昭和55年の開設以来、団地の皆さんも温かく見守ってくださっています。



5 喜多見バオバブ保育園

東名高速横のやま公園に隣接している開園4年目の新しい保育園です。戸外での遊びを中心とした保育を行っています。3～5歳児は異年齢の縦割りグループです。保育士の得意な裁縫や染め物なども取り入れています。10月のプレイデーは身体を動かす活動、1月のアートフェスタは絵画や音楽などの表現活動の行事があります。普段やっていることをワークショップなどを通して、親子、職員など全員参加で共有しています。食事でも大切に考え、お米は山形産直、干物や昆布、豆などを使った和風の献立です。



6 喜多見こどもの家

東名高速下から水道道路に沿ってすぐのところにある、0、1、2歳児がそれぞれ6人ずつという小さな保育園です。クラス別の時もありますが、異年齢保育を行っています。みんな仲良しで、「お姉ちゃん、お姉ちゃん」と兄弟、家族のように過ごし、家庭的でほんわかとしています。天気の良い日はほとんど毎日、喜多見グランドや栗の木公園（5丁目子どもの遊び場）へお散歩。歩ける子はできるだけ歩いて、歩けない子はバギーで出掛けます。給食は季節のものを取り入れた季節感のある手作り給食です。

パティシエ

永井紀之さん



喜多見小の第一期生、同窓会会長でもあります

京王線・世田谷線の下高井戸駅商店街で本格的なフランス菓子店『ノリエット』を営む永井紀之さんは先祖代々喜多見の方です。

—— 永井さんが子どもの頃の喜多見はどんなところでしたか？

「畑や田んぼがいっぱいあり、環境は今とは全然違いました。遊ぶところといえば農地や寺や神社の境内など、ここででも遊びました。筏道でドッジボールをしていて車が来たら避け、去るとまた再開するということもありました」

—— 喜多見が嫌だった時期もあったそうですね？

「昭和40年代は農村的な環境で、様々な風習や暗黙の了解といった目に見えないしほりがあり、人間関係も濃厚でした。それぞれの個性を尊重するといった気風にも乏しく、息苦しく感じた時期もありました。でも今顧みると、そんな環境や人間関係こそが自分を育ててくれたのだと思います。初午(はつうま)などの地域の行事に参加し、地元で野球をし、書道教室に通い、剣道

を習い、子ども時代にはたくさんの大人や先輩と触れ合ってきました。本気で叱られたりしながら物事の善悪を身につけていきました」

—— パティシエになろうと思ったきっかけは何ですか？

「育った家は昔ながらの家で、食事はすべて和風でしたから、そうではないことに興味がありました。フランス料理店で働いていた時に、急に店が閉まることになり、そこで知り合ったパティシエのもとでフランス菓子を学ぶことになりました。フランスやスイスなどヨーロッパで6年間修業し、帰国後の1993年にフランス菓子専門店を始めました」

—— 今の喜多見をどう思いますか？

「もう昔に戻れないことは厳然たる事実です。喜多見はよそからも大勢の人が来て住むことになりました。そうならば利便性を高めて都市化を受け入れていくしかないのかもしれませんが、それでも昔から続く独自の行事などは知っている人が伝えていき、後世に残していったほうが良いと思います」



下高井戸駅徒歩3分／世田谷区赤堤5-43-1
1F フランス菓子「パティスリー・ノリエット」
2F フランス料理「プティ・リュタン」

〔ノリエットのお菓子は、新宿高島屋地下店舗とオンラインストアでも購入することができます。〕

氷川神社の夏越大祓神事

茅の輪くぐり



6月30日、神官を先頭に茅の輪をくぐりました

人が知らず知らずのうちに犯したであろう罪や過ち、心身の穢(けが)れを祓い清めるための神事を「大祓」といい、毎年6月と12月に行います。氷川神社では3年前から毎年6月に「茅の輪くぐり」神事を行うようになりました。

昔、素盞鳴尊が旅の途中で、蘇民将来と巨旦将来という兄弟のところで宿を求めました。弟の巨旦将来は、豊かな生活をしていたのにそれを断りました。兄の蘇民将来は貧しい暮らしをしていましたが、素盞鳴尊を泊め厚くもてなしました。数年後、素盞鳴尊は再び蘇民将来の家を訪れて、「もし疫病が流行することがあったら、茅(ち=かや)で輪を作って、腰につけていれば疫病にかからないですむでしょう」と教えました。

これから、「蘇民将来」と書いた紙を門に貼っておくと災いを免れるという信仰が生まれました。茅の輪も、最初は人々が腰につけるほどの小さなものでしたが、時代が経つにつれて大きくなり、茅の輪をくぐって罪や穢れを取り除く「茅の輪くぐり」神事になりました。

春の野川ガサガサ

稚魚もたくさん



補修した水路に多くの種類の生きものがいました

5月17日(日)、大人13・中学生1・小学生2・幼児8の計24人で春の野川ガサガサを行いました。水が澄んでたくさんの魚の群れが見え、特に、事前に補修しておいた喜多見大橋下の水路で多くの種類の生きものが採れました。オイカワ、フナ、ナマズ、シマドジョウなどの稚魚、温暖化の影響で北上したのか初めて見るタイワンウチワヤンマのヤゴなど、収穫は計15種類187匹でした。メダカは19匹で減少傾向です。

INFORMATION

野川事前調査&ごみ拾い

〔日時〕 8月16日(日) 7:00~9:00

〔持物〕 長靴、帽子、水筒

夏の野川ガサガサ

〔日時〕 8月22日(土) 10:00~12:00

〔持物〕 長靴または濡れてもいい靴

〔申込〕 喜多見児童館tel. 3417-9151

※ どちらも喜多見大橋上流の野川階段集合、参加費無料、保険代はポンポコ負担です。